

村半利活用検討会（令和6年度第1回）結果報告

日時 令和6年6月20日(木) 16時～17時15分

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー9名、地域ラボ・高山 支援員 1名、
事務局(総合政策部総合政策課) 6名

内容

1 協議事項

(1) 利用状況等について

- ・ 令和6年3月～5月の利用状況や占用利用実績等について説明
- ・ 今後の占用受付について

2 報告事項

- (1) 村田家寄贈 鯉のぼり掲出
- (2) 近隣の方への広報誌
- (3) 高山市若者活動支援の取組みについて

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、事:事務局

(1) 協議事項に対する意見等

メ:今後の利用予定に2つの団体の利用が頻繁に予定されており、同じような利用内容となっている
が関係はあるのか。宗教団体ではないか。

事:それぞれが活動を定期的に村半を利用して行っている。別の団体である。宗教団体ではない。

メ:中学生の利用が多いとのことだが、それによって高校生の利用が減るといったような影響はあるか。

事:1日90人から100人の利用が続いているため、村半の中を見て空いていたら使いたいと思っ
ている学生が帰っていくということもある。特に土日はそのような様子が見られる。高校生は平日の夕
方から夜にかけての利用が多く、中学生は土日の利用が多い。利用が重なることが頻繁ということ
は無い。

メ:小中学生が騒がしくて、学習をするために来た高校生が集中できなくて帰るということも聞いたた
め、共存できると良いと思う。

事:開館当初は自主学習する学生の利用が大半だったが、昨年くらいから遊びたい学生と勉強した
い学生の両方が共存する状況になってきた。蔵の1階と2階では構造上音が漏れてしまうため、学
習するために来所した学生には北蔵を勧めたり、大人数で騒ぎたい場合は大会議室や中央蔵を
勧めるなど、使い分けや誘導をするといった工夫をしている。部屋の数も限られているため不便を
かけているところもあると思う。

メ:利用登録者数について、高校別の登録者数は卒業した学生も含まれているか。

事:開所からの総数になるため含まれている。開所からのこれまでの斐太高校の学生の登録は全体
の65%となっているが、令和5年度の登録者数は59%となっており傾向は変わっていない。中学
生の利用が伸びており、開所からの中学生の登録者数の割合は全体の17%となっているが、令

和5年度の中学生の割合は30%と増えている。

メ:日本の昔の建物は音が良く響くため、下の階に音が響くのも当然のことであり、それを学ぶことも村半だと思う。利用事例の中で、学生がアルミホイールを電子レンジに入れようとしていたとあったが、これも勉強だと思う。失敗や体験をすることも大切だと思う。あまり目くじらを立てず、失敗しても良いという姿勢でいてほしい。

事:中央蔵は1階の天井が板1枚と薄く、騒ぎになることもあったため子どもたちには話しながら使ってもらっている。少しのミスであれば問題は無いと思うが、このエリアは木造の貴重な建物も多いため、大きな火事にならないようにバランスも見ながら管理していきたい。

メ:さきほど聞いた団体はどのような団体なのか。

事:生きづらい気持ちを抱えている方や障がいを持った方をはじめ、いろんな方が集まって何でも話し合おうという趣旨で座談会を実施している。開所した令和2年度から利用があり、村半を良く利用される団体のひとつ。

メ:毎回15人定員で開催されているのか。

事:参加者が2、3人と少ない時もある。

メ:この団体の座談会に参加したことがあるが、多い時は20人くらい参加者がいる。ふらっと入れるような場づくりをされている。

事:福祉関係の団体。開所当初から福祉関係の団体の利用は多い。車椅子の方が中央蔵で読書会をやりたいと継続して利用もされており、段差もあり不便ではあるがニーズはある。

メ:利用者の駐車場についての意見は聞いていないか。

事:不便という話はあまり聞かない。車椅子の方は入口で乗降されており、利用者さんには駐車場が近くに無い場所だと理解をして使っていただいていると思う。

メ:市営駐車場を開放するといった考えはあるか。

事:登録された利用者の方に対しては、市営空町駐車場と市営弥生橋駐車場の利用を案内し、その2つの駐車場の駐車料金を無料化している。

メ:稼働率が上がり多様な利用がされてきているなかで、スタッフの時間の使い方について、観光の方と利用者の方の優先順位をどうやってつけようかと悩まれることがあるのではないか。

事:観光の方には入口でガイドの必要性について伺ったうえで案内している。各部屋に満遍なく学生が入ってきたなというときは見回りをし、勉強と遊びができるだけそれぞれで固まれば良いなという思いで調整をしながら対応している。完璧にとはいかないがそのように対応している。

メ:対応が間に合わないようなことはないか。

事:間に合わないことは無いが忙しくて走り回っている。スタッフが2人いるときは良いが、1人で対応するときは大変である。

事:土日の午前中はスタッフを加配しているが、今後も話を聞きながら調整が可能な範囲で対応していきたい。

(2) 報告事項について

「高山市若者活動支援の取組みについて」に対するご意見

メ:学校を卒業して高山市に就職した若者への補助金があるが、家業を継いだ者にも助成されるのか。高山市には職人がある程度いるが、後を継ぐということがなくなってきている。高山にとっては大事なことだと思うため、職人への支援の充実も考えてもらえたらありがたい。

事:以前は、アパート代など住居にかかる費用への助成など、市外に進学や就職をして戻ってきた若者にのみ支援を行ってきたが、戻ってきた若者だけでなく、市内の高校を卒業後市内に就職し

た若者へも支援できるよう見直しを行った。十分な支援が完成したわけではないと思うため、今後も様々な方の話を聞き、市内で働いてくれる子が増えるための支援の仕組みをすすめていきたい。

メ:特に職人へ力をいれていただけたらと思う。

事:伝統工芸関係をはじめ建設業界なども人材が厳しい状況にある。人材の確保は、現在策定中の第九次総合計画の基本理念の案としている「人を育み、未来につなぐ」にもつながるものと思っており、取り組みをすすめようとしているところ。

メ:親子2代で生活費を賄うことは難しい。廃業する方の理由の多くはそこだと思う。一緒にやりかけても途中で子がやっていけないと辞めてしまって廃業するというのが結構ある。

メ:最近市内の老舗の餅屋が相次いで閉店した。菓子屋も閉店している。昔からの老舗がどんどんなくなってきている。

事:子どもに後を継いでもらいたいという方がいる中で、それがそもそも難しく私の代で畳まなければならないという事業者もあると聞いている。そこを事業承継の仕組みを作り、継いでもらいたい人と継ぎたい人のマッチングができないか取り組みを始めている。成功例が出てればそれを参考にしようというようにできないか去年あたりから取り組みだした。

事:補助金等の詳しい支援制度については次回の検討会で報告する。

メ:市民文化会館が実施する催しものは高齢者向けのものが多い。以前若者向けの企画を実施したのがなかなか厳しかった。そのようなことも言ってもらえないため、なんとか若い方にも来てもらえるような企画をいろいろと企んでいる。市だけががんばるのではなく、様々な団体とも一緒になってやらないと若者は流出してしまうと思う。タッグを組んでいろいろなことをやっていきたいと思う。

メ:今の若者は自分が中高生だった若い頃と比べて真面目で純粋。今の若者は素晴らしいと思う。祭の獅子や鬨鶏楽は親がやっていると子どもが親の背中を見て継いでくれる。最近、祭りの行事がやりたいと高山に帰ってきた家族もいる。そういう方もいる。昔よりも今の若者の方が一生懸命だと思う。

以上